

会員増強のための活性化会議 グループワーク資料

(配布資料①)

地域薬剤師会名：さいたま市薬剤師会

地域薬剤師会代表者名：野田 政充

① 数値目標

- 現会員数：A 会員 282 名 B 会員 76 名
 - 目標会員数：A 会員（+9.41%）：27 名 B 会員（+11%）：8 名
-

② 具体策（3 項目）

■施策①（すぐできること）

内容：

退会者に対して、薬剤師会加入による利点についてまとめた書面を作成する

開始時期：7 月

■施策②（少し頑張ればできること）

内容：

エストエイドを用いて A 会員に対し、県薬加入の案内と利点について周知

開始時期：秋ごろ

■施策③（新しい挑戦）

内容：

行政・大学・3 師会等との協定や連携を進め、会員だからこそ行える事業を拡大する

開始時期：9 月以降

③ 想定される課題（任意）

B 会員は日薬まで加入すると年 40,000 円、県薬までの加入でも 33,000 円の会費に加えて入会金が必要になる。
物価高騰の一方で給与所得が増えていない現状において、支払以上の魅力が実感できない・価値が見いだせない部分にお金を使うことができない現状がある。

A 会員への加入は管理薬剤師以外にエリアマネージャーや経営者の裁量が働くため、実務における費用対効果を十分に感じられないと、個人会員同様に入会に繋がらない。

④ 埼玉県薬剤師会への支援要望（任意）

入会活動は各地域薬剤師会の役員等にまかせるのであれば、本来ある業務時間を割いての活動となるため、相当者に対する保証や補助を行うことを検討してほしい。

また、各地域薬剤師会で行われている事業は魅力のあるものも多い。特に市と行政で進めている内容で、県の薬剤師会でも重要な事業と判断するものについては必要に応じて県薬が共催もしくは後援といった形でかわることで付加価値を高め、県薬にも入会することで得られるメリットを打ち出せるような形作りを求める。

さらには、県薬剤師会の活動が会員以外に HP や地域薬剤師会を通してだけでなく、独自で伝える方法を検討いただきたい。会員へは、個人薬局開設時の支援や専門薬剤師取得までの支援、研究の仲介支援（研究参加への募集の通知等）などがメリットと感じてもらえる部分もある。以上事項も含め、県薬独自でも各地域薬剤師会に求めているこの 3 ステップを明確に打ち出し実施してほしい。